

ちちぶ銘仙館

秩父市熊木町28-1

繊維試験場として、昭和5年に建てられました。織物「秩父銘仙」の製造過程やその歴史を残し、文化を未来に伝えます。



ここに注目！ 3つのポイント



① のこぎり屋根

特徴的なのこぎり型の屋根は、太陽の光を多く取り込みます。細かい作業をする織物では、光が大切だそうです。デザインがおもしろいだけでなく、意味のある形なんです。



② 銘仙の機械

銘仙が完成するまでの工程を学ぶことができます。中には複雑な機械も多くあり、技術の高さがうかがえます。



③ 石積み

渡り廊下で凝った模様の石積みを発見！大谷石できているそうです。



他にも…



屋根の木に細かい切れ込みが！葉っぱがかくついているようにも見えます。「飾りかな」という建築デザインで、風よけの効果があるんだとか。

写真ではわかりづらいですが、ガラスにはムラがあり反対側が少し歪んで見えます。これは当時のままのガラスが残っている証拠。ぜひ足を運んで確かめてみてください。



窓枠や扉の装飾、玄関タイルにも目を光らせてみると、小さな発見がいっぱい！

銘仙ができるまで



撚糸機で糸を撚る作業。

整経機で、糸を巻きます。
100本の糸を、二回巻いたら
200本、十回巻いたら1000本
…というように束ができていき
ます。↓



仮織り
縦糸の中に何本か横糸が混
じっているのがわかるで
しょうか。仮織りといって、
色付けの工程で柄がずれな
いよう横糸で固定します。

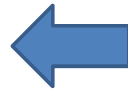


ほぐし捺染

秩父銘仙独自の染糸技術。型紙
を使って縦糸を模様染めます。
今でいうプリント!?



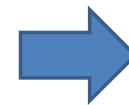
型紙↑
和紙を何枚か柿渋で貼り付け
たものを、ナイフで彫って型紙を
作ります。色の数だけ、型紙が
必要です。



ほぐし織り
いよいよ本織りで、
仮織りで留めた糸
をほぐして外しな
がら織っていきま
す。



ついに完成!
ほぐし捺染で織られた秩父銘
仙は裏表がないのが特徴。ま
た、糸を後から染めるため複
雑な柄も得意とします。



着物にするとこんな感じ。→
見る角度によって異なる光沢
を放つ玉虫色がとってもきれ
い!



2015年8月 訪問
埼玉モダンたてもの学生レポーター
千葉大学文学部 黒田 翔